第２学年　国語科学習指導案

児　童　　２年１組　男子１２名　女子１２名
指導者　　後藤　真由美

１　単元名　　お話の人ぶつになりきって，音読げきをしよう

２　学習材名
　中心学習材　「お手紙」（光村図書２年下）
　補助学習材　「ふたりはともだち」　「ふたりはいっしょ」
　　「ふたりはいつも」　「ふたりはきょうも」（文化出版局）

３　単元を貫く言語活動とその特徴

場面の様子について想像を広げ，音読劇をすること

　本単元を貫く言語活動として「場面の様子について想像を広げ，音読劇をすること」を位置付けた。音読劇の方法として，声と簡単な体の動きとでお話を表すことを設定する。
　音読劇をするためには，会話文や地の文を役割分担し，場面の様子が伝わるように音読を工夫したり，簡単に動作化したりする必要がある。そのためには，登場人物の行動に着目して読み取り，登場人物に寄り添いながら音読したり体を動かしたりすることが欠かせない。
　このことから，本言語活動は「場面の様子について，登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと」（C 読むことウ）の実現に結び付くものと考えた。

４　単元について
（１）　児童について
　児童は，「ふきのとう」で「役に分かれて工夫して音読すること」の言語活動を通して，場面の様子や登場人物の気持ちを想像しながら，読み方を工夫することを経験した。また，「スイミー」で，「好きな場面の感想を書くこと」の言語活動を通して，登場人物の行動を根拠に場面の様子を想像し，登場人物に言ってあげたい感想を書いた。その中から一番心に残ったものを選び根拠となる文や言葉，感想語彙，そう思った理由を入れた感想文を書いて交流することを学んだ。これらの学習を通して，登場人物の行動に気を付けながら読んだり，場面の様子が表れるように音読したりする力が身に付いてきているが，個人差が大きい。どう工夫したらよいか分からない，自分では工夫しているつもりだが相手になかなか伝わらないという児童もいる。そこで，場面の様子が表れるように工夫して音読することについては，今後も経験を増やしていきたい。
（２）　指導について
　中心学習材「お手紙」は，友達の不幸せをいっしょに悲しみ，幸せを共に喜ぶかえるくんとがまくんの心の触れ合いを通して，二人の友情が伝わってくる作品である。
　補助学習材は，「お手紙」が収録されている「ふたりはシリーズ」である。短気で少しわがままなところがあるけれど憎めないがまくんと，がまくんに比べて少し大人っぽくとても優しいかえる

くんとの関係が描かれている。登場人物が少なく会話を中心として物語が展開していくため，人物の心情やその変化が理解しやすい。また，会話の際の二人の位置，距離，しぐさ，顔の向きを考えることで，二人の心情と心の通い合いを豊かに想像することができる学習材である。

単元を通して，次の三つを大切にしていきたい。

一つ目は，「単元のめあてを知り，学習の見通しをもつこと」である。音読劇をイメージしやすいようにモデルＶＴＲを視聴させ，お話の人物になりきるのは面白そうだという気持ちをもたせたい。そして，なりきるためには登場人物の行動や会話などから場面の様子を想像することが必要であることを押さえ，１年生に披露する音読劇発表会に向けた学習の流れをつかませたい。

二つ目は，「並行読書の話で，音読劇発表会を行うこと」である。シリーズを通して描かれる登場人物の行動や，ストーリーのつながりに気付くことによって，解釈の手掛かりが多く得られるため，一つの作品だけよりも場面の様子について想像を広げて読むことができると考える。音読劇を行ったり鑑賞したりすることで，「ふたりはシリーズ」の世界観をより楽しませたい。

三つ目は，児童のつまずきが予想される「登場人物の行動や気持ちを読み取ること」である。登場人物の行動にサイドラインを引き，会話文から気持ちやその理由を考えて書き込ませ，話し合いを通して自分の考えを深めさせることによって場面の様子を読み取らせたい。

本時は，並行読書してきた「ふたりはシリーズ」の中からグループで選んだ話を音読劇にするために，「会話文の読み方」と「地の文の読み方」の工夫に着目させ練習していく。次時の音読劇の動きを考える学習につながる読み方を工夫させていきたい。

5　単元の指導目標

〇場面の様子が表れるように工夫して音読劇を行い，物語の世界を楽しもうとしている。
（関心・意欲・態度）

◎登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むことができる。（読むことウ）

〇語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。（読むことア）

〇主語と述語の関係を理解して文章を読むことができる。
（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ（カ））

6　単元の評価規準

	国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語文化についての 知識・理解・技能
おおむね満足できる状況	音読劇の楽しさに気付いたり，自分の思いを表現したりしようとしている。	◎登場人物の行動に気を付けて読み，場面の様子を想像している。 〇場面の様子が表れるように音読している。	文の中における主語と述語との関係を理解している。

7　単元の学習計画及び評価計画（読むこと　１３時間）

段階	時間	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価規準 （評価方法）
見通す	1 ・ 2	1　単元のめあて，言語活動をつかみ，学習の見通しをもつ。 お話の人ぶつになりきって，音読げきをしよう。 2　学習計画を立てる。	○音読劇の要素を把握させる。 ○「ふたりはシリーズ」の話を音読劇にして，１年生に発表するという活動のイメージをもたせる。 ○音読劇をする話を選ばせる。	関―音読劇をすることに関心をもつ。（発言，シート） 関―発表会へ向けての意欲を高めている。（発言，シート）
深め る	3 ・ 4	3　「お手紙」を読み，物語のあらすじをつかむ。（一～五場面）	○物語の設定，構成をつかませる。 ○自分の好きな場面をどのように音読劇に表したいか，初発の感想として書かせる。 ○主語と述語を理解させ，誰の会話文かとらえさせる。 ○教科書に音読劇の工夫を書き込んだものを台本として扱うことを確認する。	関―音読劇の楽しさを感じている。（発言，音読劇，シート） 読―物語のあらすじをとらえている。（発言，ノート，シート）
	5	4　一と四の挿絵を対比し，一の場面の様子を想像し，音読劇をする。	○場面を対比することで，登場人物の様子の変化に気付かせる。 ○行動や会話文に着目して音読劇をすることで，場面の様子を想像させる。	読―場面の様子について想像を広げながら読んでいる。（発言，台本，シート）
	6	5　二の場面の様子を想像し，音読劇をする。		読―場面の様子が表れるように音読している。（発言，音読劇）
	7	6　三の前半場面の様子を想像し，音読劇をする。		
	8	7　三の後半と四の場面の様子を想像し，音読劇をする。		
	9	8　五の場面の様子を想像したり，自分の好きな場面の音読劇をしたりする。	○「お手紙」の学習を振り返り，音読劇発表会に向けての課題をもたせる。	言―主語と述語の関係を理解している。（台本）
広げる	10 11 本時	9　自分の選んだ話について、音読劇の仕方を考える。 10　音読劇の練習をする。	○学んだことを生かしながら，登場人物の気持ちや読み方の工夫を考え，台本に書き込ませる。 ○台本をもとに，友達とアドバイスし合いながら音読劇を工夫させる。	関―音読劇の楽しさを感じている。（シート） 読―場面の様子について想像を広げながら読んでいる。（発言，台本）

	12	11　音読劇発表会に向けて音読劇を仕上げる。 ※昼休み時間に音読劇発表会を行う。	○ビデオに撮り，客観的に見ることで，修正を図らせる。	読―場面の様子が表れるように音読している。 （発言，音読劇）
	13	12　単元の振り返りをする。	○音読劇発表会のビデオ観賞をしながら活動を振り返り，本単元で身に付いた力を自覚させる。	

８　本時の学習（１１/１３）

（１）目標　場面や人物の様子を想像しながら音読劇の練習をし，感想を伝え合い，さらに音読を工夫することができる。

（２）展開

段階	学習活動	学習内容 （◎主発問）	指導と評価のための工夫
導入 3	1　前時の学習を想起する。 2　本時の学習課題と学習の流れを確認する。	○学習の進め方を確認し，本時の課題を具体的にもつこと	・グループで音読劇にするための練習をする学習であることを確認する。
展開	3　自分たちが選んだ話を音読劇の役に分かれて練習し，感想を伝え合う。	○台本どおり，通して音読すること ○役になりきって音読すること ・会話文の読み方 ・行動を表す文の読み方 ・地の文の読み方 例 「クッキー」 ・心配そうに小さな声で ・自信たっぷりな感じでゆっくり 「あしたするよ」 ・どんどん片付けていく様子 「ぼうし」 ・とってもうれしそうに ○グループで作った台本に基づいてよいところやアドバイスするところをお互いに見つけ，伝えること ◎台本をもとに音読練習をして，よいところやアドバイスするところを見つけましょう。	・グループごとに練習させる。 ・今まで学習してきた音読の要素の掲示を使って確認する。 「クッキー」 「あしたするよ」 「ぼうし」 ・人物の気持ちの書き込みを参考にして，役になりきった会話文の読み方の工夫に着目させる。 ・場面や人物の様子の書き込みを参考にして，その様子が表れるような地の文の読み方の工夫に着目させる。 ・前時までに書きためてきた音読劇の要素を参考にさらに工夫できそうな読

35	4　グループ内で役割に分かれ，アドバイスを生かして音読練習をする。	○アドバイスしてもらったことをさらに書き込むこと ○アドバイスを生かして，自分の考えを深め，音読を工夫すること ◎それぞれの役に分かれて，さっきのアドバイスを生かして練習しましょう。 例 ・さっきより小さい声で心配そうに読んでみます。 ・自信たっぷりな感じになるようにゆっくり読んでみます。 ・がまくんが片付けていく様子が分かるようにだんだん声を大きくしながら読んでみます。	み方に挑戦させる。 ・グループで決めた読み方をさらに色ペンで書きたさせ前の音読よりもっといい音読になるよう意識させる。 ・台本の書き込みをヒントに，登場人物になりきって音読を工夫するように支援する。 ・グループの役割に分かれて声を出してみることで工夫の仕方やさらに気づいたことを確認させる。
終末 7	5　学習の振り返りをする。 6　次時の学習を確認する。	○ふりかえりシートを使って，自己評価すること ○本時確認したことを基に，次時は動きを入れて音読劇を仕上げること	・アドバイスを生かして音読できたか振り返ることで，本時に身に付けた力を実感させる。

（3）板書計画

友だちのアドバイスを生かして、
音読のしかたをくふうしよう。

①台本どおり音読する。

②グループでおたがいにアドバイスし合う。

お話の人ぶつになりきるために

○人ぶつの気もちになって
会話文を読む

○人ぶつの気もちや様子が
分かるように地の文を読む

～しながら　・声の大きさ
～ように　・読むはやさ
～そうに　・声のちょうし
～な気もちで

③新しいアドバイスを台本に書きこむ。

④アドバイスを生かしてれんしゅうする。

⑤学習のふりかえり